

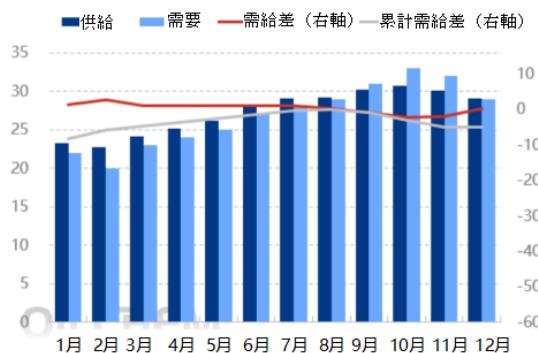
# CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

## 2026年 中国負極材料市場の展望

負極材料の予測では、中国は2026年の総生産量が326万トン、輸入量が1.5万トン、市場の総供給量は327.5万トンと見込まれている。一方、需要面では、動力電池、蓄電池、民生用電子機器分野の合計消費量は323万トンと見込まれている。これらを総合すると、年間の需給差は約4.5万トンとなり、供給が需要をやや上回る見通しである。



出典：隆衆資訊

図1. 月別の負極材料需要量と供給量の見通し（2026年1~12月）

具体的に月別の推移を見ると、需要低迷期にあたる1~2月は需給ギャップが拡大し在庫が増加する。3~8月は需要の回復に伴い、その差は徐々に縮小するものの、供給過剰の傾向が続き、一定の在庫余剰が維持される見通しである。その後、需要期を迎える9~11月には、需要が供給を上回ることで需給バランスが逆転すると予想される。

2026年の負極材料の総消費量は、前年比21%増の323万トンに達する見込みである。内訳としては、エネルギー貯蔵用蓄電池が前年比33%増、動力電池が同27%増と、いずれも高い成長率が予測される。



出典：隆衆資訊

図2. 負極材料の消費構造の比較

# CMI 株式会社

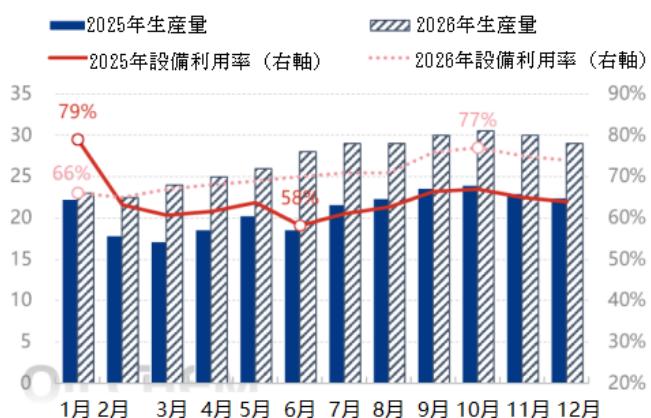
横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2026年の負極材料市場は高水準の成長率を維持し、総消費量は前年比57万トンの増加が予測される。

分野別では、新エネルギー車の普及拡大を背景に、動力電池分野で39万トンの増加が見込まれる。蓄電池分野においては、2025年9月に発表された「新型エネルギー貯蔵システムの規模化建設特別行動方案（2025～2027年）」に基づき、2027年までの設備容量目標が1.8億kWに設定された。これにより、2026年は前年比17万トンの消費増が見込まれる。また、ドローン等の「低空経済」の急発展や政府のスマート端末支援策を背景に、民生用電子機器分野でも新たな応用先が創出され、市場拡大が一段と加速する見通しである。

2026年における負極材料の月平均生産量は、前年比28.6%増の27万トンとなる見通しである。また、月平均の設備稼働率は、前年から7ポイント上昇し、71%に達すると予測されている。



出典：隆衆資訊

図3. 月別の負極材料生産量と設備稼働率の推移（2025年1月～2026年12月）

情報源：石墨盟